

# 衆議院農林水産委員会ニュース

平成 23.8.3 第 177 回国会第 18 号

8月3日(水) 第18回の委員会が開かれました。

## 1 農林水産関係の基本施策に関する件

- ・鹿野農林水産大臣、笹木文部科学副大臣、大塚厚生労働副大臣、筒井農林水産副大臣、吉田農林水産大臣政務官及び政府参考人に対し質疑を行いました。

(質疑者及び主な質疑内容)

### 野田 国 義君(民主)

- ・戸別所得補償制度がバラマキと指摘されているが、同制度の検証をどのように行い、今後どのように進めていこうと考えているのか。
- ・TPP交渉の現状と今後の対応についてどのように考えているのか。
- ・原子力発電所の再稼働に際しては、地域の首長だけでなく広域の枠組みの中で判断すべきではないか。また、放射性廃棄物の処理についてどのように進めていくのか。

### 山岡 達 丸君(民主)

- ・牛肉・稲わらから暫定規制値を超える放射性セシウムが検出されている問題(以下「牛肉・稲わらからのセシウム検出問題」という。)に関する緊急対応策の肥育経営への支援策については、出荷制限をしている畜産農家に対して全飼養頭数を勘案して立替払いを行う必要があるのではないかと。
- ・汚染された牛肉だけでなく汚染稲わらを給与された牛肉の肉を全量買い上げるとともに、今後出荷される牛肉の全頭検査を行い牛肉の安全性を高めるべきではないかと。
- ・牛肉・稲わらからのセシウム検出問題について、農林水産大臣はどのような決意で取り組むのか。

### 江藤 拓君(自民)

- ・今年度で終了する森林整備加速化・林業再生事業について平成 23 年度第 3 次補正予算で十分な予算額を確保すべきではないかと。
- ・7月27日の農林水産委員会において筒井副大臣は、東京電力福島第一原発事故については「原子力損害の賠償に関する法律」第3条第1項に規定されている免責に該当しないと発言されたが、何を根拠に同発言を行ったのか。

- ・金融機関に対して、再度、資金の円滑な融通について国が強く要請を行うとともに、独自に融資制度を設ける県に対し国が支援を行うべきではないかと。

### 伊東 良 孝君(自民)

- ・根室海峡におけるロシアの大型トロール漁船の操業による資源乱獲や日本漁船の漁具への被害について、農林水産省はロシアに対して規制強化等の要請をどのように行ってきたのか。
- ・鯨類捕獲調査に関する検討委員会の中間とりまとめを受けて鯨類捕獲調査の継続実施について、どのような対策を講じるのか。
- ・SPEEDI(緊急時迅速放射能影響予測ネットワークシステム)のデータに基づき農林水産省が適切に対策を講じていれば、牛肉・稲わらからのセシウム検出問題は防げたのではないかと。

### 石田 祝 稔君(公明)

- ・牛肉・稲わらからのセシウム検出問題に関し、7月27日の農林水産委員会において農林水産大臣は全頭検査に係る国の対応について厚生労働大臣と協議したいという趣旨の答弁をしているが、その後、厚生労働大臣と協議を行ったのか。
- ・放射能測定機器の整備に係る国の交付金交付率は2分の1だが、農産物の放射能汚染は県や農家に責任はないので、交付率を見直すべきではないかと。
- ・原子力災害対策特別措置法に基づき、岩手県知事に牛肉の出荷自粛要請の指示がなされているが、こうした場合にも東京電力による損害賠償の対象となるのか。

### 西 博 義君(公明)

- ・農林水産省は原子力発電所事故を踏まえた家畜の飼養管理についての通知を3月19日に発出したとしているが、同通知には「稲わら」という言葉を用いてないこと等が問題視されており、現場における指導や通知

の在り方について検証が必要ではないか。

- ・農地の土壌汚染に関する調査にどのように取り組んでいるのか。
- ・津波等による塩害等で土壌が汚染されている地域で農業を継続するための手段として、水耕栽培等の植物工場の普及拡大を積極的に進めるべきではないか。

## 吉 泉 秀 男君(社民)

- ・牛肉・稲わらからのセシウム検出問題の影響で、たい

肥の移動が制限されているが、たい肥の取扱いについて今後どう対応するのか。

- ・東日本大震災等の影響や高知県等の早期栽培の作柄が「やや不良」ないし「平年並み」だったこと等を踏まえ、米の安定供給について農林水産省はどう認識しているのか。
- ・中国への米輸出拡大に向けて昨年12月に中国側と覚書を交わしたが、今後どのように進めていくのか。また、輸出検疫条件を満たすためのくん蒸倉庫と精米センターが離れている場合の取扱いはどうなっているのか。

## 2 原発事故による牛肉からの放射性セシウムの検出に関する件

- ・「原発事故による牛肉からの放射性セシウムの検出に関する件」について、山田委員長から決議案が提出され、趣旨説明を聴取しました。
- ・採決を行った結果、全会一致をもってこれを委員会の決議とすることに決しました。  
(賛成 - 民主、自民、公明、社民、石川知裕君(無)、松木けんこう君(無))
- ・鹿野農林水産大臣から発言がありました。